

沖縄工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	地域文化論	
科目基礎情報							
科目番号	4019		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	情報通信システム工学科		対象学年		4		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	教員が編集したプリント。						
担当教員	下郡 剛						
到達目標							
沖縄地域社会の理解を目的とし、沖縄の文化・歴史・地理風土などについての認識を深める。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
		現在における沖 縄戦認識とそれを扱うメディアの個性を理解した上で、沖縄戦の軍事 史的な側面・住民被害の側面・さらに社会的問題となっている集団自 決問題の関係性を総合的に理解 できる。		現在における沖 縄戦認識と、沖縄戦の軍事史的な 側面ならびに住 民被害の側面の 関係性を総合的 に理解できる。		沖縄戦の軍事史 的な側面ならびに住 民被害の側面 の関係性を総合 的に理解できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	資・史料を提示し、歴史学的方法論を併せて説明することで、科学的・論理的に考える能力を高める。						
授業の進め方・方法	資・史料を提示し、歴史学的方法論を併せて説明することで、科学的・論理的に考える能力を高める。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業の方針・進め方等についての説明。		
		2週	教科書問題とメディア論		現在における沖縄戦認識の一つとして、教科書問題を取り上げ、同問題における大手新聞社の論説を比較検討する。		
		3週	岩波・大江裁判の法理と報道		沖縄戦認識をめぐる、教科書問題の出発点ともなった、岩波・大江裁判判決の法理を理解するとともに、その法理に基づいて、改めてメディア報道の有り様を考える。		
		4週	沖縄の戦略的重要性		軍事史としての沖縄戦の初回として、何故沖縄が戦場になったのか、太平洋戦争全体の中での沖縄の戦略的重要性を理解する。		
		5週	大本営陸海軍部より見る沖縄戦作戦計画		軍事史としての沖縄戦の2回目として、東京からの視点で沖縄作戦計画を理解する。		
		6週	第3 2 軍より見る沖縄戦作戦計画		軍事史としての沖縄戦3回目として、沖縄現地守備隊の視点から沖縄作戦計画を理解する。		
		7週	地上戦の推移		軍事史としての沖縄戦4回目として、上記作戦計画を踏まえた上で、実際の戦闘がどのように行われたのかを理解する。		
		8週	沖縄戦末期、32軍の新作戦計画		軍事史としての沖縄戦5回目として、戦闘の推移の結果、32軍が最後に策定した作戦計画を理解することで、論点を住民被害問題へとつなげてゆく。		
	2ndQ	9週	住民保護問題に関する、政府・大本営の基本方針の策定		住民被害としての沖縄戦の初回として、日本が国家としてどのような方針を採用するのかを理解する。		
		10週	県外疎開の奨励		住民被害としての沖縄戦の2回目として、県外疎開問題が生じた背景を理解する。		
		11週	県内疎開の奨励		住民被害としての沖縄戦の3回目として、海上が封鎖された後、県内疎開問題が生じた背景を理解する。		
		12週	沖縄戦末期、新疎開計画		住民被害としての沖縄戦の4回目として、沖縄県で最後に策定された疎開（避難）問題が生じた背景を理解する。		
		13週	集団自決 1		教科書問題の直接契機となった集団自決問題を、沖縄本島における事例として読谷村をとりあげる。		
		14週	集団自決 2		教科書問題の直接契機となった集団自決問題を、離島の事例として渡嘉敷村をとりあげ、沖縄本島の事例と比較、発生の背景を理解する。		
		15週	日本国憲法		モデルコアカリキュラム対応。戦争直後で成立した日本国憲法について、特に9条が成立した歴史的背景について考える。また政府による憲法解釈変更について考える。		
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0